



笠松町立笠松小学校 学校だより NO.1

槐 (えんじゅ)

令和7年4月7日

～学校の教育目標～

みんなのしあわせを考えて
豊かな心でねばり強くやりぬく

『こどもをまんやかにした学校』を目指して

校長 佐々木 治

4月7日、新一年32名を迎え、全校児童218名で新学期がスタートしました。新6年生が新入生のためにビデオメッセージを準備し、子どもたちのやる気が行動として見るができる、とても素敵なスタートになりました。

始業式でこんなお話をしました。赤ちゃんキリンは産まれてから1時間も経たないうちに、自分の力で立ち、歩き始めます。しかも、赤ちゃんキリンが生まれて最初に経験することは、2メートルもの高さから（産み落とされて）地面に落下することだそうです。そんな状況からひとりで立つことができるのは、立ち上がらなければ他の動物に襲われてしまうというリスクがあるからだと言われています。それに比べて人間の赤ちゃんはどうでしょうか。生まれてすぐにできることは、様々な感情を泣くという手段を使って周りに伝えることです。もちろん立って歩くことができるようになるには、1年程度かかります。人間とキリンを比べると、生まれた直後はこれだけ違いがあるのです。

その後人間は多くの人に助けられ、驚くほど成長していきます。しかし、周りの助けがいくらあっても、「自分自身でやってみたい」という気持ちがなければ思うようには成長していきません。ぜひ、自分でやってみたいと思うことを見つけ、失敗を恐れずに挑戦していける一年にしていきましょう。

子どもたちが、学校生活を通して自らの意思で前へ進んでいけるように下記のような活動を大切にしていきます。

- ・ 様々なことに挑戦し、自分が人の役に立っていることに気づき、
みんなの幸せを考える子を育てていきます
- ・ 体験的な活動を通して豊かな心を育み、
予測不可能な社会へ立ち向かい最後までやりぬく子を育てていきます
- ・ 様々な場面において、考える時間、場を設定し、
粘り強く自ら考える子を育てていきます

一年間、笠松小学校のすべての子どもたちのために、教職員一同、精一杯取り組んでいきますので、ご理解とご支援の程よろしく願いいたします。

笠松小学校の庭に、「槐（えんじゅ）」という木が植えられています。この木は、高級銘木として知られています。「えんじゅ」の木は昔、お面などをえんじゅの木で彫刻し、家の鬼門に置いたことから、「木」辺に「鬼」で「槐（えんじゅ）」と書かれました。また、「延寿」と書いて長寿や安産のお守りとして、「縁授」とかいて縁を授かるお守りとして使われました。このことから、「えんじゅ」の木は、魔除け・長寿・安産・幸せの木として大変喜ばれています。

笠松小学校に関わるすべての方が幸せになられますことを願って学校だよりの題名を「槐（えんじゅ）」とさせていただきます。